

民生文教委員会と小中学校教職員との意見交換会

令和3年11月18日に、学校現場で活躍する方々の生の声を聴くため、意見交換会を行いました。



【教職員の働き方改革について】

- ・小中学校教員の時間外勤務は減少したが、マネジメントする人の負荷が増大している。
- ・児童生徒に向き合うために、勤務時間外も対応している。
- ・小中学校教員の空き時間確保が求められる。
- ・支援員やスクールサポートスタッフ配置の継続支援と増員が求められる。

【特別支援教育の現状と課題について】

- ・支援員を効果的に活用するため、雇用条件の緩和が求められる。
- ・多様化する特別支援に対応するため、専門性や経験が求められる。

地元高校生との意見交換会

本年度は、令和3年12月22日の午前に袋井特別支援学校高等部、午後に袋井商業高校で開催し、いずれも「袋井市をよりよいまちにするために何ができるか」をテーマにグループワークを行いました。生徒などが考える“よりよいまち”、そのために自分たちに“何ができるか”について発表いただき、その内容を基に活発な意見交換がなされ、最後に各グループにおける話し合いの内容が発表されました。

そこでの声を一部紹介します。

- ・ごみが落ちていないきれいなまちを目指すため、啓発ポスターの作成やごみ箱の設置、ごみ拾い運動を行う。
- ・障がいの特性について情報を発信したり、地域との交流でお互いを知ってもらう。
- ・さまざまなイベントを行い、子どもと大人が交流できる場が増えるとよい。

若者たちの想いや柔軟な発想を今後の施策に反映できるよう、今回の意見なども参考に、議会活動に努めてまいります。

なお、袋井高校での開催は、令和4年2月17日に予定しています。



意見発表の様子
(袋井特別支援学校高等部)



グループワークの様子
(袋井商業高校)